

地域とつながる

美しい棚田の自然と農業文化を次世代につなぐ

中田の棚田

中田の棚田は、紀美野町の南西部中田地区の標高200から300メートルに広がる面積約10ヘクタールの棚田です。中田の棚田の歴史は古く、中田地区から高野山に米を納めていたことが高野山文書に記録されています。また、生石高原の湧水を供給している全長約600メートルにおよぶ用水路「竜王水」は、現在も約200メートルが手掘りのまま残っており、豊富な水量で中田の棚田を支え続けてきました。最盛期には14ヘクタールもの水田が広がっていましたとされる中田の棚田ですが、高齢化や後継者不足から、棚田を耕作する農業者はわずか3名となり、棚田の大半が耕作放棄地となっていました。



稻刈り



田植え



収穫祭



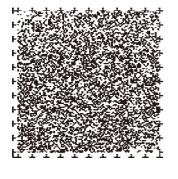
灌漑用水路「竜王水」の整備

貴重な体験 自然の中で過ごす

中田の棚田で行われている農業体験や様々なイベントには、町内外から多くの方が参加してくれます。和歌山市内から来たNさん一家は、「田植え」と「稻刈り」に参加しました。子どもたちに本当の自然の中で過ごして欲しい、普段食べているお米がどうやってできるのかを知ったり、様々な体験がこれから成長の糧になってくれたらと思います。協議会の方をはじめ皆さん親切で居心地がいいですよ」と笑顔で話してくれました。



棚田deCAMP



Nakata Rice Terraces

The Nakata Rice Terraces are terraced rice paddies of approximately 10 hectares in area, located 200-300 meters above sea level in the southwestern part of Kimino Town. The paddies, which had been abandoned, have been restored under the leadership of the Ogawa Rice Terrace Revitalization Committee. Through events such as rice farming experiences and on-site camping, exchange between participants from both Kimino and beyond has been increasing.

小川地域棚田振興協議会発足から会長を務める北裕子さんが、棚田再生について次のように話してくれました。

北会長 私を含め住民の間では、この素晴らしい農業文化と景観をもつ中田の棚田を次世代につなぎたいという思いは高まる一方でした。活動は2019年、紀美野町まちづくり推進協議会から始まり、棚田についての勉強会の開催、県の支援を得るなど復興に向かって動き出しました。さらに、「棚田地域振興法」が施行されるなど、国も棚田保全活動を支援する動きが活発化したことでも追い風になりました。これを機会に「小川地域棚田振興協議会」を設立し、棚田再生プロジェクトが本格始動しました。2020年には地域おこし協力隊も加わり、耕作放棄地約2ヘクタールを再生、自然栽培による稻作を開始しました。交流事業として「棚田サポーター」を募集、県の援農ボランティアも活用し、町内外から様々な世代が参加して田植え、草刈り、稻刈りなどの農作業を行っています。また、棚田deCAMPや地元小学校の農業体験、収穫した農産物の加工などのイベントを通じて、中田の棚田を中心に交流が広がることで、関係人口が増えるよう活動しています。これからも、皆さんと一緒に棚田の再生活動に邁進し、水田面積を増やしていくとともに、例えば空き家を活用したゲストハウスを開業するなど、地域資源の活用が進めばもっと素晴らしいと思っています。



未来につなげたい
始まる棚田再生
プロジェクト

